

平成 28 年度

事業報告書

社会福祉法人 芳清会

目次

I 総務課	1
II 事業部	2
〔1〕 各種委員会・会議等	2
〔2〕 研修	4
1. 外部研修	4
2. 内部研修	5
〔3〕 年間行事	6
〔4〕 アクティビティ	7
〔5〕 実習・見学等	9
1. 実習・見学受け入れ	9
2. 一般の見学	10
〔6〕 ボランティア	10
〔7〕 医務室	11
〔8〕 栄養	15
〔9〕 特別養護老人ホーム	17
1. 在籍	17
2. 退居	18
3. 新規入居	19
4. 入居申し込みと待機者状況	20
5. 入院実績	21
6. 受診実績	21
7. 要介護度推移	24
8. 平均年齢推移	24
9. 収入段階、利用料	24
10. 外出	25
11. 外泊	25
12. 面会	25
13. 相談員の業務を振り返って	25
14. その他	25
15. 介護	26
〔10〕 デイサービス	29
〔11〕 ショートステイ	31
〔12〕 居宅介護支援事業所	36

1. 総務課

〔1〕 【自衛消防訓練等】

1. 第1回目

日 時 平成28年5月12日 午後2時から午後3時
内 容 総合訓練（避難・消火・夜間想定）
参加人数 約30名（職員・入居者・利用者）
届出関係 川越消防署届出



2. 第2回目

日 時 平成28年10月20日 午後2時から午後3時
内 容 総合訓練（避難・消火）
参加人数 約30名（職員・入居者・利用者）
届出関係 川越消防署届出





〔2〕 【職員健康診断】

1. 第1回目

日 時 平成28年8月25日・26日 午前9時から午後0時

内 容 全職員対象

受診人数 90名

協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院

健診内容 問診・聴診・身長・体重・腹囲・視力・聴力・血圧・心電図・胸部X P（間接撮影）・尿検査（糖・蛋白・ウロビリノーゲン・潜血）・抹消血液一般（白血球数・赤血球数・血色素量・ヘマトクリット）・GOT・GPT・ γ -GTP・総コレステロール・HDL-コレステロール・中性脂肪・血糖・ヘモグロビンA1C

2. 第2回目

日 時 平成29年2月23日 午前9時から午後0時

内 容 夜勤職員対象

受診人数 56名

協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院

健診内容 問診・聴診・身長・体重・腹囲・視力・聴力・血圧・心電図・胸部X P（間接撮影）・尿検査（糖・蛋白・ウロビリノーゲン・潜血）・抹消血液一般（白血球数・赤血球数・血色素量・ヘマトクリット）・GOT・GPT・ γ -GTP・総コレステロール・HDL-コレステロール・中性脂肪・血糖・ヘモグロビンA1C

3. ストレスチェック

日 時 平成28年10月

内 容 全職員対象

受診人数 46名

協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院

II 事業部

〔1〕 各種委員会・会議等

1. 衛生管理委員会

産業医の指導の下、入居者様や介護従事者の健康管理について検討を行った。特にインフルエンザやノロウイルスなどの感染症については情報の

共有を徹底し、発生・感染しないように加湿や手洗い方法、症状が見られた際の早めの対応等の体制を検討し、整えた。また、施設内備品の配置や扱い方、保管方法についても、産業医による巡回指導を実施した。

また職員の健康診断、ストレスチェックを実施し、その結果についても再検診等の指導を行った。

2. 苦情対策委員会

今年度の苦情の申し出は5件あった。衣類の紛失について、介護職員の介護方法と情報共有についてのご指摘と、送迎時間の相違についてのご意見であった。それぞれについて委員会内にて報告し、職員間で会議の場を設け、今後の対応について検討した。申し出者へは、謝罪と改善についての報告を行った。

3. 事故・身体拘束防止委員会

今年度発生事故件数は、合計705件であった。前年度に比べ、件数が大幅に増加した理由として、事故に分類する基準の見直しを行い、ヒヤリハットの分類をなくし、「事故」と「気付きメモ」で扱った事が挙げられる。

事故内容を事業所別に見ると、デイサービス16件、ショートステイ181件、特養487件（2階・83件、3階・176件、4階・228件）、医務21件であった。事故内容は、転倒や車椅子からのずり落ち等による打撲や裂傷（痣の発見含む）が437件と最も多かった。発生時は逐一ご家族へ報告を行った。

委員会では、それぞれの事故についての原因究明と再発防止に努め、全職員が統一した認識を持って事故防止に取り組めるよう、施設内で起きた全ての事例を、全ての部署で確認できるようにした。

今年度も引き続き、お一人お一人の予測される事故の「事故リスク一覧」を作成し、随時の見直しを行った。

4. 褥瘡対策委員会

現在褥瘡が発症している方の状態報告と、褥瘡になる可能性がある方について、看護師と栄養士、介護職が情報を共有して改善策を検討した。取り組みの効果も見られ、入居時に褥瘡があった方も、完治に近い状態まで回復した。

5. 排泄委員会

「おむつゼロ」への取り組みで、排泄習慣の確認や排便状況の情報収集を行った。おむつ使用量の減少や、摂取水分量の増加、下剤使用量の減少など、一定の成果が見られた。オムツ対応だった方をトイレに誘導する機会も増えている。今後も施設職員が一体となり、より良い排泄介助、より良い介護の提供へと取り組んでいく。

6. 医療的ケア安全対策委員会

認定特定行為業務従事者登録を行った介護職員が、看護師の指導にて安全に医療的ケアが行えるよう、その仕組みや方法について検討した。

7. ケアプラン会議

ア) カンファレンスの開催

6ヶ月毎にケアプラン会議を開催し、全入居者様のケアプランを作成した。アセスメントについては、施設独自の表を使い、それぞれの担当職員と他職種間で意見交換を行い作成した。また、更新や区分変更で要介護度

が変更になった際や、入退院等で心身状態が大きく変化した際も臨時で会議を開催し、プランの変更を行った。作成したケアプランはご家族に送付し、署名を頂いた。

	会議件数		会議件数		会議件数
4月	19	8月	21	12月	16
5月	15	9月	14	1月	18
6月	17	10月	19	2月	15
7月	17	11月	13	3月	25
				合計	209

イ) 看取り介護

今年度は2名の方の看取り介護に取り組んだ。随時の情報交換、情報共有を徹底し、ご家族を交えた話し合いの中で、その都度看取り介護体制の整備に努めた。また、看取り介護を終えた方については後の振り返りの中で、看取り介護についての体制作り、心構えを改めて確認した。

今後も看取り介護に取り組む機会が増えていくと思われるので、ご家族や医師、各職種間で協力して取り組んでいきたい。

8. 入居検討委員会

今年度も措置入居の事例はなく、申込書の記入内容と相談内容により、県の優先順位の規定に基づき検討した事が確認されている。

9. 入居判定会議

今年度の新規入居は18件であった。その都度、入居申込者の中から優先順位の高い方の面談調査を行い、ご家族の意向とご本人の状態を基に、各フロアでの対応と生活介護上の課題について検討し、会議で検討された方は全員入居可となった。

10. 入居者自治会

入居者の方を個別に訪問してご意見を伺った。主に生活環境に対するご意見や、行事についての案内、また食事に対するご意見も多く聞かれ、「旬の食材を使った料理が食べたい」など、様々なご要望も頂いた。

〔2〕研修

1. 外部研修

研修日	研修名	参加者
4月6日	新任調査員説明会	1名
4月28日	地域難病従事者研修会	1名
5月9日 5月16日	接遇推進者養成研修	2名
6月21日	感染症基礎研修	3名
6月28日	第1回社会貢献活動推進連絡会議	1名
6月30日	介護セミナー 排泄ケアから考える「活動と参加」の支援	1名
7月6日 7月7日	リハビリテーションセンター研修 「脳血管障害者の暮らしを支えるために」	2名

7月9日～ 7月17日	介護福祉士実習指導者講習会	1名
7月28日 8月4日	初任者キャリアパス研修	1名
8月4日	リハビリテーションセンター研修 「神経難病患者の暮らしを支えるために」	1名
8月8日	埼玉県老人福祉施設協議会入間東支部研修会	2名
8月10日	「食と栄養研修」～高齢者の栄養を考える～	1名
9月1日	埼玉県介護支援専門員レベルアップ研修	1名
9月1日	認知症介護基礎研修	1名
9月26日～ 11月25日	介護支援専門員更新研修	1名
9月28日 9月29日	関東ブロック老人福祉施設研究総会	2名
10月14日	ケアプラン・スキルアップ研修	1名
10月15日	川越市老人福祉施設栄養士情報連絡会	1名
10月21日	自立支援型地域ケア会議の実施に向けて	1名
11月1日	モチベーションアップ研修	1名
11月10日	栄養士・調理師研修会	1名
12月13日	虐待のメカニズムと多職種によるチームケア	1名
1月10日	生活困窮者支援に関する研修 「生活困窮者支援において必要とされる視点」	2名
1月26日 2月2日	新任職員フォローアップ研修	1名

2. 内部研修

研修日	研修内容	講師（報告者）	参加人数
4月29日	「ケアプランと記録」	鈴木新太郎	11名
5月16日	感染症研修会	日向美恵子	23名
6月17日	新入職員研修	理事長、施設長、 総務部長、特養所長	11名
6月17日 6月24日	事故防止研修会	鈴木新太郎	13名 15名
7月29日	介護研修会 「バイタルについて」	猿渡生美	13名
9月1日	高齢者虐待防止研修会	鈴木新太郎	14名
9月26日	看取り介護研修会	鈴木新太郎	9名
10月17日	褥瘡予防研修会	日向美恵子、宮崎慶子	19名
10月28日	介護研修会 「接遇について」	佐藤嘉昭、渡辺理恵	17名
11月14日	感染症研修会	日向美恵子	18名

12月19日	事故防止研修会	特養所長	15名
1月31日	介護研修会 「陰部洗浄について」	短期介護職員	14名
2月24日	介護研修会 「爪切り・移乗介助」	看護主任、特養所長	16名
3月20日	看取り介護研修会	看護師	17名

〔3〕年間行事

月 日	行事名	行事内容
4月上旬	お花見	日東団地周辺、上奥富運動公園、水上公園等
6月10日	収穫祭 (梅狩り)	特養の入居者様 11名、ボランティア 1名が参加され、梅の実を約 18kg 収穫した。収穫した梅の実で梅ジュースを作った。
6月11日	お買い物会	日常生活の中で、交流の場所として買い物の雰囲気を楽しんで頂いた。20名の方が、ご家族 15組と一緒に参加された。
9月11日	敬老会	敬老会を開催した。古希から百四賀まで、22名の方が表彰を受け、49名のご家族にも参加して頂き、表彰式、ボランティアの方々の催し、昼食会を楽しまれた。
9月14日	まきば保育園 訪問	近隣の保育園児 37名が来所し、歌や踊りを披露した。かわいい子供たちとの交流で、たくさんの笑顔を見ることができた。
10月9日	八瀬の里祭り	あいにくの雨模様の中、屋内での吹奏楽演奏で開始となる。午後からは天候も回復し、恒例の和太鼓、お囃子、模擬店開催と、賑やかなお祭りを味わって頂いた。 約 90名のご家族も来所され、最後は参加者全員で記念撮影を行い、終了となった。
10月24日	尚美学園大学 合唱隊訪問	ライオンズクラブのご協力を頂き、尚美学園大学合唱隊『匠』の方々14名が来所され、きれいな歌声を披露して頂いた。本格的な合唱で選曲も良く、みなさん口ずさんで楽しまれた。
11月23日	お買い物会	日常生活の中で、交流の場所として買い物の雰囲気を楽しんで頂いた。15名の方が、ご家族 7組と一緒に参加された。
12月20日	大東西中学校 訪問交流会	中学校の生徒たち 45名の訪問にて合唱や踊りの出し物等の披露を楽しんで頂き、地域交流を図った。特養とデイサービス利用者 45名の方が楽しまれた。
1月9日	お買い物会	日常生活の中で、交流の場所として買い物の雰囲気を楽しんで頂いた。6名の方が、ご家族 1組と一緒に参加された。

2月1日	大東西小学校 JRC活動	21名の小学生が来所し、リコーダーの演奏やコマ回し、紙芝居、折り紙、けん玉等を披露して交流を図った。特養とデイサービス利用者21名の方が楽しまれた。
3月1日	まきば保育園 訪問	近隣の保育園児38名が来所し、歌や踊りを披露した。かわいい子供たちとの交流で、たくさんの笑顔を見ることができた。

〔4〕アクティビティ

各ユニットで企画された、季節に応じたアクティビティが、下記の通りに実施された。

表1. 実施アクティビティ一覧

実施日	参加人数	「食」関連	誕生会	季節関連	買い物、行き先	行き先の地域資源
4月	15	おやつレク				
	16			花見	サンパーク奥富	サンパーク奥富
	14			花見	水上公園	水上公園
	4	レストラン外食	誕生会		とんでん	
	31	寿司三昧		花見	日東公園	日東公園
	16			花見	白山神社	白山神社
5月	3	寿司、蕎麦外食	誕生会		籠屋	籠屋
	7			薔薇鑑賞	智光山公園	智光山公園
	6		誕生会	新緑鑑賞	増形近隣	
	4			新緑鑑賞	増形近隣	白山神社
	7			新緑鑑賞	増形近隣	
6月	3	寿司			はま寿司	
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	12		誕生会	演奏会		
7月	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	8	そうめんレク		素麺		
	7	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	1				しまむら、ヤオコー	
	16		誕生会	演奏会		
8月	32	カキ氷レク		カキ氷		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	13	おやつレク	誕生会	ケーキ		
9月	4			秋散歩	智光山公園	智光山公園
	14	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	11		誕生会	演奏会		
	2	寿司、蕎麦外食			籠屋	籠屋
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
10月	3	レストラン外食		ハンバーグ	とんでん	
	7	寿司	誕生会	寿司	はま寿司	はま寿司
	8	おやつレク		親睦会		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		

	1			電気街巡礼		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	3	寿司、蕎麦外食		寿司、蕎麦	籠屋	籠屋
	4		誕生会	演奏会		
	7	おやつレク	誕生会	ケーキ		
11月	4			市場見学		
	3	寿司、蕎麦	誕生会	寿司、蕎麦	籠屋	籠屋
	14	食事レク	誕生会	たこ焼き		
	18	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	16	食事レク	誕生会	お好み焼き		
	7	食事レク	誕生会	たこ焼き		
	7	食事レク	誕生会	たこ焼き		
12月	32	寿司		クリスマス	銀のさら	
	4	寿司、蕎麦	誕生会	寿司、蕎麦		
	32			クリスマス		
	12		誕生会	演奏会		
	25			クリスマス		
1月	19			初詣	白山神社	白山神社
	8			初詣	白山神社	白山神社
	11			初詣	白山神社	白山神社
	9			初詣	白山神社	白山神社
	7	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	14	おやつレク	誕生会	ケーキ		
2月	14	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	15	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	8	つくね鍋	誕生会			
3月	31	茶話会		桃の節句		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		

表2. アクティビティ参加人数

月	件数	参加人数(名)	食関連	誕生会	季節関連	買物	交流
4	9	96	3	1	4		
5	6	27	1	2	4		
6	5	31	3	3	1		
7	6	40	3	3	1		
8	4	53	3	2	3		
9	6	47	4	4	1		
10	9	49	6	3	2	1	1
11	7	69	6	6			4

12	5	105	2	2	3		2
1	8	68	2	2	4		
2	3	37	3	3	1		1
3	2	39	1	1	1		1
合計	70	661	37	32	25	1	9

表3. 階別アクティビティ回数

	施設内	外出	合計
2階	8件	8件	16件
3階	18件	6件	24件
4階	21件	9件	30件
合計	47件	23件	70件

〔5〕実習・見学等

1. 実習・見学等受入

項目	実習日時	人数	内容・目的
市立小・中学校5年経験者研修	8月16日～18日	3名	他者への思いやりの心や公共心を深めるとともに、福祉分野に係わる学校教育以外の社会に視野を広げる。
大東西小学校町探検	12月1日	15名	地域の小学生が町の社会資源を探検して回る活動で、見聞を広める。
川越市立大東西中学校社会体験学習	2月20日～22日	3名	学校では得られない経験を通して、豊かな感性や社会性、自立心を養い、豊かに生きる力を育む。
川越市立大東中学校社会体験学習	2月20日～22日	3名	学校では得られない経験を通して、豊かな感性や社会性、自立心を養い、豊かに生きる力を育む。
計	4件	24名	

2. 一般の見学

月	件数	人数(名)	月	件数	人数(名)
4月	3	4	10月	5	10
5月	9	14	11月	1	2
6月	10	16	12月	5	10
7月	2	2	1月	2	6
8月	0	0	2月	6	10
9月	2	5	3月	2	2
			合計	47件	81名

〔6〕ボランティア

月	件数	人数	詳細
	人数		
4月	18件	35人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、琴
	35人		
5月	15件	20人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴
	20人		
6月	22件	45人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、大正琴、どじょうすくい、民謡
	45人		
7月	18件	25人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、琴
	25人		
8月	17件	34人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、大正琴、フラダンス
	34人		
9月	18件	28人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴
	28人		
10月	17件	38人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、八瀬の里祭、大正琴
	38人		
11月	20件	34人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、琴、大正琴、サックス演奏
	34人		
12月	17件	21人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、フラダンス、サックス演奏
	21人		
1月	14件	20人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴
	20人		
2月	20件	36人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、大正琴、サックス演奏
	36人		
3月	14件	23人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、大正琴
	23人		
合計	210件	359人	
	359人		

〔7〕 医務室

『健康管理』に伴う基本方針」に基づき、入居者様および利用者様に対し健康管理および医療処置を行った。

「健康管理」に伴う基本方針

- ・ 入居者様の生活に障害となる疾病や症状に対して、健康面からの管理を行った。如何にその人らしく生活出来るかの可能性を探り、入居者様自身がどんな生活を望んでいるかと言う視点で、入居者様が毎日の生活を快適に過ごすことが出来る様サポートした。
- ・ 特に、疾病予防医療に重点を置き、どんな方法を使えば状態を維持出来るか、あるいは、苦痛無く回復出来るかを検討し、他の職種間との協働で健康管理サービスを提供した。
- ・ それぞれの入居者様の意思（ライフスタイル）を尊重し、入居者様自身、また、ご家族がどのような最期を望んでいるかを把握し、入居者様のリビングウィルに対応した健康管理サービス（医療処置）を提供した。

1. 予防医療

ア. 入居者様の健康状態の把握

- (1) 介護職員の報告を把握し、ユニット訪問による入居者様の健康状態の把握に努めた。
- (2) 毎日の排便をチェックし、下剤を調節して食物繊維や水分の摂取を促し、肛門診、坐薬、摘便、浣腸等での排便のコントロールを行った。

イ. 医療機関および医師による検診の実施

- (1) 川越市に住所のある入居者 84 様名（入院者 2 名、希望なし 1 名を除く）に対し、帯津三敬病院の医師および看護師が八瀬の里に出張して健康診断を実施し、結果を配置医に報告し入居者様の診察をした。
 - ・ 健康診断実施日：平成 28 年 10 月 18 日
 - ・ 健康診断受診結果については配置医へ回診時に報告。受診結果に応じて配置医から出された指示に基づき、ご家族に連絡の上、提携病院での受診対応を行なった。
- (2) 狭山市に住所のある入居者 3 名様は協力病院（狭山市内）で健康診断を実施した。
- (3) 入居期間の短い新規入居者様については、入居前に健康診断を実施済みのため省略した。（該当者 6 名）

ウ. 流行性疾病蔓延の予防

- (1) 肺炎球菌ワクチン接種を希望者 8 名に実施した。
- (2) インフルエンザ予防接種の実施。
 - ・ 実施日：平成 28 年 11 月 22 日　〔入居者様：89 名、職員：86 名〕

エ. 感染の予防

- (1) インフルエンザ、ノロウイルスの流行期にあたる 11 月から 4 月の間は、職員全員マスク着用とした。また、職員、入居者様に発熱があり感染症が疑われる場合は、職員全員が周知出来る様、職員玄関に表示し蔓延予防につとめた。
- (2) 感染症の疑いのある入居者様については、早期隔離につとめ、感染の拡大

を防いだ。

- (3) 感染症対策委員会を定期的を開催し、施設職員が情報を共有し対策が取れる様、マニュアルを作成した。(本年度はインフルエンザ、ノロウイルスについて作成。)

【内部研修】

- ・ 平成 28 年 5 月 16 日 感染症予防研修会：食中毒、肝炎について
- ・ 平成 28 年 11 月 14 日 感染症予防研修会：ノロウイルス発症時の対応

【外部研修】

- ・ 平成 28 年 6 月 21 日 感染症研修会 於：ウエスタ川越
- ・ 平成 28 年 10 月 14 日 東基板倉工場見学

【感染症対策委員会】

- ・ 平成 28 年 7 月 15 日
- ・ 平成 28 年 8 月 19 日
- ・ 平成 28 年 9 月 16 日
- ・ 平成 28 年 10 月 21 日
- ・ 平成 29 年 11 月 18 日
- ・ 平成 28 年 12 月 16 日
- ・ 平成 29 年 1 月 20 日
- ・ 平成 29 年 2 月 17 日
- ・ 平成 29 年 3 月 17 日

以上の対策の結果、入居者様にインフルエンザ、ノロウイルスの発症はなかった。

2. 治療医療

ア. 的確な症状の把握

- (1) 介護職員の報告を把握し、バイタルサインの確認、異常症状発生以前からの状態の確認と変化した全身の状態を観察した。
- (2) 医療機関およびご家族等の関係者からの入居者様情報の入手に努め、入手した情報を関係者に確実に連絡し、情報の共有化を図った。

イ. 症状に適した処置の実施

- (1) 温冷罨法や安静にして様子を観察するなどにより、施設内処置を行った。
- (2) 配置医の指示を仰ぎ、入居者様の処置を行った。特別な医療処置が必要な入居者様に対して、日常必要な医療処置の経管栄養・吸引・外科的・皮膚科的・泌尿器科的処置、湿布、点眼を行った。

内容	人数 (延べ人数)
経管栄養 (鼻腔・胃瘻)	8 名
バルーンカテーテル留置	3 名
吸引	15 名
褥瘡	7 名

- (3) 必要時に医療機関で受診し、また、定期受診を継続した。(月別受診者数)

受診科 月	内科	外科	整形外科	眼科	耳鼻科	皮膚科	脳外科	精神科	糖尿病	循環器	内分泌	神経内科	口腔外科	婦人科	泌尿器科	形成外科	救急外来	合計
4月	19		3	1		1	2	4				1		3	1	3	1	39
5月	13		5			1									1	1	2	23
6月	20		4	1	1	7	3	4							1	1	3	45
7月	15	3	5		1	1	2	3							1	1	2	34
8月	18	1	3	1		3	1	4							1	1		33
9月	17		3	2		4	1	2				1				1		31
10月	15		4	1		4	1	4					1		1	1	1	33
11月	17	2				6		3				1	1			1	4	35
12月	12		2		2	4	1	4						1		1		28
1月	14			1		1		2					1		1		4	23
2月	9					1		4					1			1	3	19
3月	13		2	2			1		2				1	1	1		1	24
計	182	6	31	9	4	33	12	34	2			3	5	5	8	12	21	367

体調変化の早期発見の為、具体的な指標、対応を介護職員へ示すことにより情報の共有が出来、あわてずに受診することが出来た。その結果救急外来の受診数が減少した。

ウ. 誤薬の防止

- (1) 入居者様の服用薬を管理し、処方された服用薬の確認と服用状況の把握を行った。
- (2) 配置医による服用継続の確認を月1回行った。
- (3) 配薬準備の際、2人以上でダブルチェックを行った。
- (4) 内服薬の変更、追加に伴う錠数変更については赤伝票に記載し、介護職員へ口頭で報告し変更内容の確認を行った。
- (5) 週1回の服用薬については与薬日間違いを防ぐ為、配薬カートに赤シールで目印を付け、配薬忘れの無い様注意喚起を行った。
- (6) 万が一に備え、誤服用があった場合の連絡ルートおよび状況確認について、再度意識合わせを行った。

エ. 褥瘡の予防

- (1) 毎月、第一金曜日に褥瘡予防対策委員会を開催し、施設長を始め、所長、相談員、看護職、介護職、管理栄養士と入居者様の状態確認および褥瘡予防に向けた対応策を検討し協働と連携を図った。
 - ① 定期的な褥瘡の評価を行い、早期治療を行った。評価にあたり共通認識が出来る様、グレードI～Vに分類した。
 - ② 皮膚の観察を定期的に行い、褥瘡の予防と早期発見を図った。

- ③ ドレッシングテープや尿取りパッドを利用することで、褥瘡の治癒または改善が見られた。
- (2) 看護職員、介護職員、管理栄養士との連携により、褥瘡の予防が図れた。また褥瘡予防に対する理解を深めるため、研修会を行った。
- 【内部研修】
- ・平成 28 年 10 月 17 日 褥瘡予防研修会
3. 入居者様の意思を尊重した健康管理サービスの提供。
入居時および入居後の健康状態の変化に合わせ、リビングウィルを確認した。
4. 看取り介護への取り組み。
- ア. 看取りの時期について配置医の判断を仰ぎ、ご家族に対して説明を行った。
さらに看取りについてご家族がきちんと理解し、納得されたか、また入居者様およびご家族の死に関する要望を確認した。
- (1) 入居者様 2 名の看取りの対応を実施した。
- (2) 看取り介護の実施を通して入居者様自身だけでなくご家族への支援を通じ、モチベーションを高め、専門職としての成長を図ることができた。
- イ. 入居者様の夜間の急変時に備え、看護師は 24 時間のオンコール体制を取った。
- ウ. 看取りケアに関し、施設内で検討会および研修を行った。また提携病院と受け入れの打ち合わせを行った。
- エ. 外部研修の受講により知識を習得し、また職員を対象とした勉強会を実施することで、十分な看取りケアの実施に努めた。
- 【内部研修】
- ・平成 28 年 9 月 26 日 看取り介護研修会
 - ・平成 29 年 3 月 20 日 看取り介護研修会
5. 均一な医療サービスの提供
- ア. 毎朝のミーティングでの申し送りとカンファレンス（週 1 回）を実施し、入所者様の状態の把握や情報を医務内で共有した。
- イ. 実施した医療処置、健康状態、受診結果について記録に残し、併せて緊急時に適切な対応が取れるよう、関係部署との連携を図った。
- ウ. 必要な医療処置について外部研修の受講により知識を習得した。また看護師間の勉強会を実施し、医療知識、技術のレベルアップを図ると共に、介護職員への研修を実施して協働連携し、医療事故の防止に努めた。
また、医療的ケア会議（5 回/年）によりケアの再確認ができた。
6. 災害・非常時への準備
- ア. 災害・非常時においても、入居者様、職員、地域の方々へ対応できるように保管場所（3 階エレベーター前倉庫）において応急処置用品の確認を行った。
- イ. 入居者様の非常時持ち出し品一覧表を作成し、全職員が周知し実際に行動できるように準備した。
- ウ. 応急処置物品の管理に関しては消費期限があるため、数量の検討と物品の見直しを図った。（平成 29 年 3 月実施）
7. ショートステイ利用者様への対応
- ア. ショートステイの申し送りに毎日参加し情報把握に努めた。
- イ. ショートステイ利用者様の心身状態を観察し、必要に応じて医療処置を行

- った。
- ウ. ショートステイ利用者様の急変時、受診の要否を判断し、状況に応じた適切な対応を行った。
 - エ. 夜間におけるショートステイ利用者様の急変のオンコールに対し、必要な対応を指示すると共に、状況に応じた適切な対応を行った。
 - オ. 空床利用者様の情報を把握し必要に応じ医療処置を行った。
8. 看護職員および介護職員の連携による取り組み
- ア. 入居者様の高齢化に伴うADL（Activity of Daily Living：日常生活動作）の低下予防と現状維持に努めるため、個別機能訓練計画書を作成し、介護職員と連携を図りながら取り組んだ。
 - イ. 個別機能訓練計画書に基づき、個別に機能訓練を実施、記録した。
3ヶ月毎の評価と見直しを実施し、ご家族への提示、了解を得た。
 - ウ. 一部医療処置（口腔内吸引、胃ろう注入の介助）について一定の条件を満たした介護職員から協力を得られるようになった。また、実際に処置を行うために、研修を修了し施設長から配置医に申請して承認を受けた介護職員が入居者様やご家族の同意を得て実施した。
夜間用の吸引計画、実施記録用紙を作成し、頻回に吸引を必要とする入居者様に使用した。
9. 施設内勉強会への参加
- 入居者様に安全・安楽な生活をして頂けるよう、各種勉強会に参加した。

〔8〕栄養科

1. 食の改善計画

基本方針として、「食べる喜びを、生きる喜びへつなげる食事提供」「個人への最適な栄養ケア」「口腔機能の維持向上にむけた支援」の三点を挙げ活動を行った。

委託業者との話し合いにおいて食事内容の改善を行い、入居者様に食べやすいメニューはもちろん、色彩や盛り付けに工夫を凝らし、入居者様に喜んで召し上がって頂けるような食事提供に努めた。また簡単な食事やおやつ作りを一緒にを行い、食事作りの音や香りを楽しんで頂くことができた。さらに入居者様の状態の変化に合わせたきめ細かい栄養ケアを目指し、各部署や厨房との連携を密に取りながら情報共有に努め、出来る限り個人の嗜好や体調等に合わせた食事提供を行った。

栄養ケアマネジメントにおいては、ケア計画の内容に従って食事・水分摂取状況や入居者様の状態の変化を把握し、3か月ごとに評価を行った。その中で低体重や体重減少者においては必要に応じて補食や栄養補助食品を、嚥下機能の低下が見られる入居者様には、ミキサー粥・ムース食・トロミ剤の検討を行った。

ア) 2F

入居者様の嗜好や要望に沿った食事内容を検討し提供を行った。おやつレクリエーションでは、入居者様と一緒にたこ焼きやプリンアラモードなど簡単なおやつの調理を行い、誕生日会にはロールケーキを提

供した。食事レクでは、そうめんやフレンチトーストなどユニット職員と協力して企画・調理を行い、見た目を楽しめる提供を心掛けた。

イ) 3F

入居者様の状態に合わせ食べ易さを考慮した食事提供が出来た。誕生日には入居者様全員が食べることのできるプリンアラモードを提供した。また入居者様の意向に沿って、季節感のあるつくね鍋のデモンストレーションを行い、楽しくおいしい食事レクを実施した。

ウ) 4F

入居者様の身体状況や嗜好、食べやすい食事形態に配慮し、出来る限り個々の状態に合わせた形態の食事提供が出来た。食事レクでは、たこ焼き・焼きそば・お好み焼き・ちらし寿司などバラエティに富んだ企画で、食事作りの雰囲気を楽しみながら、食欲増進につなげることができた。

エ) デイサービス

どの利用者様にも満足して頂ける食事提供を目標とし、食事内容の一部を変更した献立や数種類のおやつを提供した。月に一度、季節感のある食材を使用した昼食バイキングやおやつバイキングを実施、選ぶ楽しみを味わって頂き、食事の雰囲気作りにも配慮したサービスの提供ができた。その他、誕生日のロールケーキの提供や利用者様と職員と一緒に簡単なおやつ作りをし、親交を深めるレクリエーションが多かった。

オ) ショートステイ

利用者様の状態に適した食事形態を検討し、また、様々な個人の嗜好に合わせ禁食代替食材を準備し、食事提供を行った。

2. 栄養ケアマネジメント

- (1) 入居者様全員を対象とし、栄養ケア計画書の作成を行った。栄養スクリーニングを行い、アセスメントを実施すると共に中・高リスク者の把握を行い、高リスク者は2週間に1度、中リスク者は1か月に1度モニタリングを実施しながら、3か月ごとの評価を基に、プランの確認や変更を行った。低体重や体重が減少傾向にある方、食事摂取不良や体調不良の方への対応として、各部署と情報を共有し、補食や嗜好に合った食事を提供しながら日々の体調管理に努めた。また、嚥下機能が低下した方への食事内容の検討を行った。
- (2) 食事環境の把握をする為に、各ユニットに訪問し、入居者様の食事摂取状況の観察を行った。各ユニットの担当介護職員から入居者様の体調や普段の食事状況について情報収集を行い、入居者様からは食事に対する様々なご意見を多く頂くことができた。
- (3) 個別の食事対応としては、毎朝パン食・おにぎり食・牛乳の代わりにヨーグルトやジュースでの提供を実施した。その他、嗜好品としては野菜ジュースやみそ類提供、水分摂取強化には水分補給ゼリー、体重コントロールの為に低エネルギー甘味料の提供を行った。
- (4) 経管栄養の方の排便状況を観察し、栄養成分を考慮し使用する濃厚流動食の検討を行った。
- (5) 排便コントロールを図るため、水溶性食物繊維の提供を行った。朝食時の味噌汁や水分に10gの食物繊維を加え摂取して頂き、経過観察を

行った。個々の排便パターンや食事・水分摂取量のチェックを行い、看護職員・介護職員と連携し、必要に応じて食物繊維の調整（10g～20g）を行った。個人によって効果の差はあるが、排便リズムが整い、改善傾向の方もいる為、今後も継続していく。

3. 栄養管理

- (1) 施設食事サービス業務全般において総括し、各施設内関係部門との連絡調整、委託業者への指示を行った。
- (2) 献立の確認・指示、食数の指示・管理、食事箋の作成・管理、嗜好調査の実施、検食の実施と検食簿の記入・管理、関係官庁等に提出する給食関係の書類の作成・確認・提出・保管・管理を行った。
- (3) 毎月一度（第二金曜日）に栄養管理委員会を実施し、各部署と委託業者と食事対応や提供メニューの内容について良かった点や改善すべき点を話し合った。食への向上と入居者様の健康管理を目的とし、食事量や食材の大きさ、嚥下困難者に対するトロミの量について意見交換をし、対応策を検討することができた。誤配膳や異物混入防止については、食事変更時の情報共有だけでなく配膳前チェックの具体的な方法について委託業者とともに検討を行い、安全に配慮した食事提供に努めた。

4. 委託業者との連携

- (1) 調理作業全般、食材管理、施設設備管理、厨房内衛生管理において、委託業者の栄養士と連携を取り、管理を行った。
- (2) 労働安全、衛生の管理として、施設栄養士を含む、調理作業に携わる調理師、栄養士全員を対象に、検便を定期的実施した。

5. 行事食、食事レクリエーションの実施

- (1) 季節感を味わって頂く為、年中行事を中心とした行事食を月に1度の割合で提供した。
- (2) フロア企画のレクリエーションとして、喫茶サービスや季節にちなんだおやつ提供、昼食バイキングを行った。献立の調整、食材の発注・管理、調理工程の確認をして実施した。
- (3) 栄養士企画レクリエーションとしては、夏に各フロアでおやつのかき氷サービス、冬にはぜんざいの提供をした。
- (4) その他として、梅ジュースを作り旬の食材を用いた保存食作りを行った。

6. 老人福祉施設栄養士情報連絡会への参加

栄養業務における情報・意見交換

・平成28年10月15日

〔9〕特別養護老人ホーム

1. 在籍

入居者様の年齢が高齢になる中で、長期入院、医療施設転院の状況がある。3月31日の在籍者は94人となっている。

療養型施設への転出、入院の長期化や死亡等での空室日数があり、平成28年度の稼働率は93.3%、平均在籍者数89.33名である。

特養に於ける短期入所生活介護の空床利用について利用延べ人数は

1,473名となっている。

次に入居して頂く対象者へは、当施設「優先入居に係わる取扱規定」による優先順位に基づき、入居順位検討結果を平成29年3月末に送付している。ご家族や関係者各位に連絡し、入居して頂けるように手続きを進め、平成28年度における退居日から新規入居日までの期間は平均約10.9日間である。

表1に示す通り、平成28年度の男女比率は、男性が35%、女性65%となり、前年と同様に女性の入居割合が高くなっている。

表1. 平成28年度入居者男女比率（平成29年3月31日現在）

	平成27年度		平成28年度	
	人数	割合	人数	割合
男性	29名	30%	33名	35%
女性	67名	70%	61名	65%
合計	96名	100%	94名	100%

2. 退 居

表2に示すように、平成28年度の退居者は20名であった。死亡による退居者が17名、療養型施設に転院が2名、他介護施設入所1名となっている。

表2. 平成28年度退居者一覧

年 月	退居者数	退居理由
平成28年 4月	1名	死亡1名（病院にて）
5月	3名	死亡2名（病院にて2名）有料型転居1名
6月	2名	死亡1名（病院にて1名）療養型転院1名
7月	2名	死亡2名（病院にて）
8月	4名	死亡4名（病院にて）
9月	1名	死亡1名（病院にて）
10月	0名	
11月	1名	死亡1名（病院にて）
12月	0名	
平成29年 1月	3名	死亡2名（看取り1名、病院1名）療養型転院1名
2月	2名	死亡2名（病院にて）
3月	1名	死亡1名（病院にて）
合 計	20名	

表 3. 年度別退居者数の推移（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平28	1	3	2	2	4	1	0	1	0	3	2	1	20
平27	2	3	0	3	0	4	2	4	2	0	2	1	23

3. 新規入居

表 4 に示す通り、新規入居者様は 18 名、その内自宅待機 16 名、老人保健施設待機 1 名、他介護施設 1 名となっている。医療機関のサービスを継続的に利用しながら、特養を待機されている。自宅待機者の方々も、短期入所介護を利用されている。それぞれの部署と連携を取りながら、今後も迅速な入居に努める。

表 4. 平成 28 年度新規入居者一覧

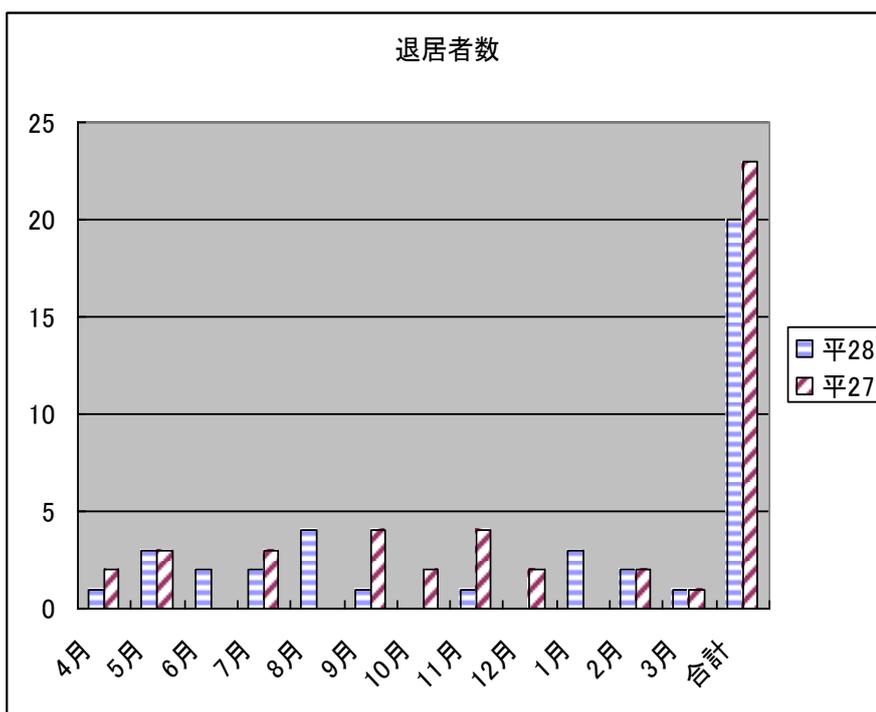
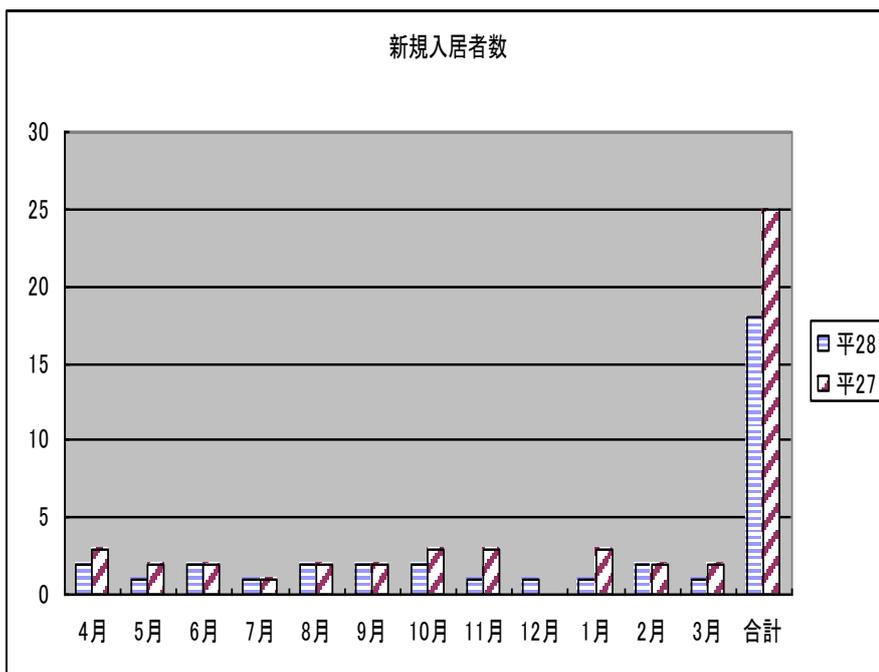
年 月	新規入居者数	入居前の居所
平成 28 年 4 月	2 名	在宅 2 名
5 月	1 名	在宅 1 名
6 月	2 名	在宅 2 名
7 月	1 名	特養 1 名
8 月	2 名	在宅 1 名 老健 1 名
9 月	2 名	在宅 2 名
10 月	2 名	在宅 2 名
11 月	1 名	在宅 1 名
12 月	1 名	在宅 1 名
平成 29 年 1 月	1 名	在宅 1 名
2 月	2 名	在宅 2 名
3 月	1 名	在宅 1 名
合 計	18 名	

表 5. 新規入居者の介護度と男女構成比

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
入居者(人)	0	0	10	3	5
女性	0	0	6	2	2
男性	0	0	4	1	3

表 6. 年度別新規入居者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平28	2	1	2	1	2	2	2	1	1	1	2	1	18
平27	3	2	2	1	2	2	3	3	0	3	2	2	25



4. 入居申込みと待機者状況

平成28年4月から平成29年3月の間の新規申込は39件であった。また、この期間中の申込取下は25件であった。平成29年3月末における入居待機者数は、188人となっている。

取下げ理由として、他施設入居（重複待機）が大半を占めている。

5. 入院実績の推移

長期入院及び療養型病院への転院もあり、入院中の重篤化が顕著となり、早期受診を実施するも症状の緩和に繋がらず医療に利用者及び家族が翻弄されている。

昨年度同様、早期受診を行いながら、入院されている入居者様及びご家族の負担軽減の為に、空床利用を推進することを都度ご提案していく。

※入院推移については「平成 28 年度 入院者数の推移」参照

6. 受診実績

受診の頻度は、月平均にすると 30.6 回となり前年度より増加している。ご入居者様の高齢化を踏まえ、日常生活の健康状態について回診での診察、施設内における体調の経過記録からも、今後も状態変化に早めの対応が考慮される。

表 8. 受診実績の推移 (注: 一部の検査関係は除き、家族対応を加えているので、医務の集計とは若干異なる)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平 28 年度 合計回数	39	23	45	34	33	31	33	35	28	23	19	24	367
平 27 年度 合計回数	34	31	27	39	26	36	23	32	38	21	36	31	347

平成 28 年度 在居者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日	91	88	89	87	85	91	90	92	89	92	84	90
2日	91	88	91	87	85	91	90	92	89	92	84	91
3日	91	88	92	87	86	90	92	91	89	92	85	91
4日	91	88	89	87	86	90	91	90	89	92	85	90
5日	91	88	88	86	87	90	91	90	90	91	85	90
6日	91	87	88	86	87	90	91	90	91	91	85	90
7日	91	87	88	86	86	90	91	92	91	90	85	89
8日	92	87	88	86	86	89	91	92	92	90	85	88
9日	92	87	88	86	86	89	91	91	92	90	84	88
10日	92	87	88	86	86	89	91	91	92	90	86	90
11日	92	88	88	87	86	89	91	92	92	90	86	90
12日	91	88	88	87	88	90	91	92	93	90	86	90
13日	92	89	88	88	88	90	91	92	93	90	86	91
14日	92	89	88	88	88	90	92	92	93	90	85	91
15日	92	88	89	88	89	90	92	92	93	90	85	91
16日	92	88	88	88	88	90	92	92	93	91	86	90
17日	92	88	88	88	89	90	93	92	93	91	87	90
18日	92	88	89	88	89	90	93	92	92	91	87	90
19日	92	88	89	88	89	90	92	92	92	90	87	89
20日	93	88	89	89	89	90	92	92	91	89	88	89
21日	93	90	89	90	89	89	93	92	91	89	88	89
22日	93	90	89	90	89	89	91	89	91	89	88	88
23日	92	90	88	88	89	90	91	88	91	90	89	88
24日	91	90	87	88	89	90	91	89	91	90	89	89
25日	91	90	87	88	90	90	91	89	91	88	89	89
26日	90	90	87	89	90	90	91	89	92	86	88	89
27日	90	90	88	86	90	90	90	89	92	87	89	89
28日	90	90	86	85	90	90	91	89	92	86	90	89
29日	90	90	87	85	90	90	91	88	92	84	84	89
30日	90	89	87	86	91	90	91	88	92	84		89
31日		89		85	91		92		92	84		89
月間在居人数	2,743	2,745	2,648	2,703	2,731	2,696	2,831	2,721	2,836	2,759	2,421	2,775
定員数	2,880	2,976	2,880	2,976	2,976	2,880	2,976	2,880	2,976	2,976	3,688	2,976
平成 28 年度 在居率	95.2	92.24	92	90.83	91.77	94	95.13	94.5	95.30	93.04	90	93.25

★平均在居率 93.1% 平均在居人数 89.33 人(年間在居人数 32,609 人 年間定員数 35,040 人)

平成 27 年度 在居率	93.51 %	95.97 %	91.73 %	93.48 %	94.39 %	90.19 %	92.88 %	90.15 %	91.90 %	90.46 %	83.94 %	92.10 %
-----------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

★平均在居率 91.73% 平均在居人数 89.48 人(年間在居人数 32,757 人 年間定員数 35,712 人)

平成 28 年度 入院者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日	5	9	6	9	9	1	3	3	6	4	10	4
2日	5	9	4	9	9	1	3	3	6	4	10	3
3日	5	9	4	9	8	2	2	4	6	4	9	3
4日	5	9	7	9	8	1	3	5	6	4	9	4
5日	5	9	8	10	7	1	3	5	5	5	9	4
6日	5	10	8	10	7	1	3	5	4	5	9	4
7日	5	10	8	10	8	1	3	4	4	5	9	5
8日	4	10	8	10	8	2	3	4	3	5	8	6
9日	4	10	8	10	8	2	3	5	3	5	9	6
10日	4	10	8	10	7	2	3	5	3	5	7	5
11日	4	9	8	9	6	2	3	4	3	5	7	4
12日	5	9	8	9	4	2	3	4	2	5	6	4
13日	5	8	8	9	4	2	3	4	2	5	6	3
14日	5	8	8	9	4	2	2	4	2	5	7	3
15日	5	9	8	9	4	2	2	4	2	5	7	3
16日	5	8	9	9	5	2	2	4	2	4	6	4
17日	5	8	9	9	4	2	2	4	2	4	6	4
18日	5	8	8	9	4	2	2	4	3	4	6	4
19日	5	7	8	9	4	2	3	4	3	5	6	5
20日	4	7	8	8	4	2	3	4	4	6	5	5
21日	4	5	8	7	4	3	2	4	4	6	5	5
22日	4	5	7	7	4	3	4	7	4	6	5	6
23日	4	5	8	9	3	3	4	8	4	5	4	6
24日	6	5	9	8	3	3	4	7	4	5	4	5
25日	6	5	9	8	3	3	4	7	4	6	4	5
26日	7	5	9	7	3	3	4	7	4	8	5	5
27日	7	5	8	10	3	3	5	7	4	7	4	5
28日	7	5	10	11	3	3	4	7	4	8	4	5
29日	7	5	9	11	3	3	4	7	4	10		5
30日	7	6	9	10	2	3	4	7	4	10		5
31日		6		10	1		3		4	10		5
平 28 年度	154	233	237	283	154	65	96	151	115	175	186	140

(年間延べ人数 1,989 人 月平均 165.8 人)

平 27 年度	98	112	148	196	166	180	174	158	120	198	244	187
---------	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

5. 要介護度推移

表9の通り、身体の状態の変化が大きく、今年度一年間の介護度は、平均介護度3.9となっている。

表9. 要介護度の推移（平成28年度平均介護度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
介1(人)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
介2(人)	4	4	4	4	4	3	3	2	2	2	2	3
介3(人)	24	24	22	22	24	27	27	27	28	29	30	28
介4(人)	40	41	41	39	37	34	35	35	35	35	37	38
介5(人)	28	27	28	29	29	29	29	31	30	30	26	25
平28平均介護度	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9
平27平均介護度	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9

6. 平均年齢推移

入居者平均年齢87.3歳（男性：81.5歳、女性：89.9歳）

表10. 平均年齢の推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
女性	90.14	90.12	90.15	90.00	89.97	89.69	89.70	89.73	89.82	89.90	89.79	89.89
男性	81.37	81.38	81.41	81.30	81.14	81.38	81.71	81.80	81.59	81.92	81.16	81.37
平28年度全体	87.52	87.60	87.51	87.25	87.27	87.12	87.18	87.25	87.25	87.35	86.91	86.93
平27年度全体	88.10	88.13	88.06	88.10	87.79	87.85	87.62	87.61	87.64	87.64	87.60	87.58

7. 収入段階、利用料

収入段階による利用料は、減免申請により、第2,3段階が48名となっている。女性の新規入居者様のご家族が、負担限度額段階区分の申請をされ、自己負担の軽減を図られている。

	平成28年度末		平成27年度末	
	人数	構成比率(%)	人数	構成比率(%)
収入段階				
第1段階	0	0	0	0
第2段階	18	19	44	45
第3段階	30	32	8	9
第4段階	46	49	45	46
合計	94	100	97	100

8. 外出

平成28年4月1日から29年3月31日の間の、入居者様のご家族と外出した回数を示したものが表12である。外出要因として、主に自宅やご家族の家への外出や、外食、通院などが上げられる。

今年度は、のべ82名の方々が外出されている。

表12. 家族との外出回数

外出回数	人数	比率 (%)
5～10	15	18
4	29	35
3	16	20
2	22	27
1	0	0
0	0	0
計	82	100

9. 外泊

今年度は外泊の件数は3件（3名）となっている。特定の入居者様が複数回の外泊をされている。ご家族の希望、要望に沿って、介護タクシー手配、車椅子活用、各部署の事前連絡、状態確認も含め、今後も対応に努める。

10. 面会

今年度の面会者の総数は、延べ6,758人と多くの方に来て頂けた。1日の面会者の平均人数は18.5人であった。

ご家族が来所の際は、なるべく日頃のご様子を伝えることにしている。ほぼ毎日面会に来られるご家族もいらっしゃり、安心して生活を送れている。来年度も引き続き多くの方に面会に来て頂けるように、ご家族へ働きかけを行っていく。

11. 生活相談員の業務を振り返って

入居されている方々の高齢化と身体状況の変化を考慮する状態が増えてきている。日々の生活が、穏やかに経過して頂けるように一層の状態把握が必要となっている。

又、ご家族の高齢化及び就労形態の多様化に伴い電子メールやSMSを通じた報告及び、ご家族様の通院日の把握に努めた年度であった。

12. その他

(1) 居室の有効利用

前年度に引き続き、入院される入居者様及びご家族の負担軽減を図る為、居室の有効利用（空床利用）をご家族に提案し、実行した。

重ねて、近隣の緊急性の高い短期入所希望の方々の受け入れを積極的に行い、入居者様に限らず介護保険をご利用されている皆様が安心してご利用できるよう、関係部署との連携を密にし、日程の調整に努めた。

(2) ご家族への連絡

状態の変化についての報告を各階フロア職員の協力も得られ、相談員不在時の報告を行えた。相談員勤務時には入院者状況の確認（日中は月曜日、金曜日に行い夕方 17:30 以降は毎日）を行い、状態変化が見られる場合は逐一報告に努めた。

(3) 保険情報提供

厚生労働省及び各種外郭機関の情報収集に努め、「介護保険」に留まらず「医療、障害保険、障害者年金、自立支援医療受給者証」の情報提供を行った。

13. 介護

【ケアプラン】

ケアプラン作成、モニタリングの実施により、入居者様に対して、メリハリのある生活の提供は一定の水準で行えている。ユニット会議での話し合いの実施等でフロア・ユニット内での連携も築かれており、ケアプランの作成に伴い情報の共有化も出来ている。身体能力の維持や安全に配慮した機能訓練の取り入れ、また他者との係わりあいや気分転換を取り入れる等、身体的・精神的要望の充足にも配慮したプランを作成した。

【カンファレンス】

入居者様、一人ひとりの無理の無い計画に基づき、各専門職との意見交換は計画的に行えた。また、入退院等により、状況に変化が見られる入居者様については、担当介護職員とケアマネジャー、他職種との連携により速やかに計画を再立案し、カンファレンスを行うことが出来た。

【モニタリング】

作成されたケアプランの情報を共有化し、フロア職員全体でモニタリングを行った。リハビリを中心としたモニタリングについては、機能訓練指導員を中心とし、担当介護職員も積極的に訓練を実施し、毎月評価した。

【身体的ケア】

(1) 食事

入居者様の身体状況の変化に合わせた食事形態を、日々の状況や職員間の情報を共有し、検討しながら提供できた。また食事を楽しんで頂くために、外食や食事レクリエーション等を計画・実施し、趣向を凝らしたメニューを提供した。食事摂取量や体重の増減についても栄養科や医務と連携し、提供量の調整や栄養補助食品の追加等で健康維持にも努めた。

(2) 入浴

入居者様の身体状況や精神状況に合わせた入浴場の提供が出来た。また、身体状況により入浴が困難な方においては、洗身用品を用いた全身清拭と更衣を実施し、週2回の入浴は予定通りに提供する事が出来た。入浴日の変更を極力減らして、ご本人の生活リズムを崩さないように努めたが、急な変更が生じる場面もあった。入浴日の固定化が出来るよう、人数配分の見直しと管理を行っていく。

(3) 排泄

引き続き、下剤に頼らない自然排便に向けた取り組みとして、入居者様のトイレやポータブルトイレへの排泄に取り組んでいる。食物繊維や水分摂取の状況を確認しながら、医務、栄養科と連携を取っていく。

今後もそれぞれの方の身体機能の状況に合わせ、無理のないよう事故に注意しながら介助していく。

(4) 更衣

入居者様の意向を尊重しつつ、季節や身体状況に合わせた服装を、個々の身体機能に合わせて行った。また、更衣の際に皮膚の状態観察を行い、怪我の早期発見に努めた。

(5) 整容・口腔ケア

口腔内の清潔に努め、歯科医師とも連携し、口腔ケアを行った。また、胃瘻や経管栄養の入居者様についても、歯科医師に介助方法や道具についてアドバイスを頂きながら、口腔内の清潔保持に努めた。

整容では、各ユニットで年間の表を作り、計画的に理美容をご利用頂けるよう取り組んだ。

(6) 健康管理・水分補給

普段の生活を見守る中で、看護師や職員間の情報共有を行って体調の変化を速やかに察知し、対応する事に努めた。水分摂取量確保の為、飲み物の嗜好や提供間隔を個別に検討し、トロミをつける・甘い物を提供する、提供回数を増やす等の対応を行った。摂取量に波があり、安定して摂取されない方については、栄養士や看護師とも協力して提供方法の変更や高カロリー飲料、水分ゼリー等で対応した。排泄ケアと関連付けられる摂取量についても、1000 ccを最低基準として、一定の水分量確保の為の援助が出来た。

(7) アクティビティ

日常生活の中で、入居者様の個々の楽しみを尊重し外出や外食等の機会を提供した。またその他、季節感のある行事等も職員間で提案し、お花見や花火等の季節的な楽しみの提供を行った。また生活の中に役割を見つけて頂く為、清掃や軽作業を手伝って頂いた。職員は入居者様の個々の生活も尊重しつつ、手伝って頂いた事への感謝の気持ちを言葉や態度で表す事に努めた。

(8) レクリエーション

入居者様同士の交流や季節感を大切にしたい企画を行い、毎年恒例の企画や誕生日会、食事レクや外食レクを行い事故も無く好評だった。ボランティアの方々の演奏会や太極拳等、施設外の方々とも交流の機会を設けて社会的繋がり構築も行った。今後も近隣の学校やボランティアとの関わりを増やし、楽しめる時間を提供するとともに、要望を取り入れたレクリエーションの提供を行っていく。

(9) 機能訓練

日々の生活の中で実施可能な機能訓練を取り入れ、機能訓練指導員の指示のもと看護師とも協力しながら個別機能訓練を行った。体操レクや散歩等も取り入れ、声掛けを日々繰り返し行う事で、生活の中に機能訓練を取り入れる事が出来た。自発的に機能維持に取り組んで頂けるよう、入居者様の意向を取り入れながら継続していく。

(10) その他

- ・ ベッド周りやトイレ内の危険個所に保護材を使用し、ケガの防止に努めた。
- ・ 新入職員を中心に施設内・外の研修会や勉強会への参加を行い、参加出来なかった職員もビデオを見ながら足りない部分は情報を共有する事で知識の取得に努めた。
- ・ 備品を丁寧に扱う事や消耗品の無駄遣いを無くす事を心掛け、発注担当を持ち回りとする事で消費量を把握し、現状把握と節約に努めた。

- ・入居者様やご家族への接遇に対して、ユニットリーダーを中心に改善に努めた。

【精神的ケア】

個人の空間を大切にす為、食事の場所や作業スペースの固定化に努め、いつもの場所で落ち着いて過ごして頂けるように配慮した。居室で過ごされる事が多い方へも、おやつの時間はリビングで過ごして頂いたり職員が居室へ伺ったりといった配慮を行い、関係の構築に努めた。時には入居者様に手伝って頂いたり、助言をして頂きながら環境整備を行い、金魚や植物の世話をを行った。今後は季節の花の育成にも力を入れて視覚的な環境美化も取り入れていくように努めていく。また、入居者様との会話を重視し、密接な関係を作ることに努めた。日々の生活に不自由の無いように配慮しつつ、良好な関係を保てるように支援していくことが出来た。また職員の対応について、大きな苦情等は見られないが、職員の言葉遣いや接遇態度の更なる向上が今後の課題である。

【社会的ケア】

ユニット内だけでなく、他ユニットの方との交流機会を散歩や合同レクを行う事で設け、関係深化に努めた。レクリエーション企画の際にボランティアの協力を得て演奏会を催したり、他フロアのレクへ参加する事で、普段顔を合わせない方々との交流を行った。また、職員やボランティアがお話を傾聴する機会を作り、集団だけでなく個々の交流にも努めた。また、地域との交流を深めるため、入居者様の気分転換のための定期的な外出や散歩等、時間を設定し積極的に行うよう努力した。また、入居者様ご家族との会話、情報の提供のお願いなどスムーズに行えた。入居者様の起床、就寝などの生活リズムにあったケアの提供では、入居者様の生活リズムに合わせて行えた。ライフスタイルの尊重では、フェイスシートやご家族からの情報などにより、その入居者様のライフスタイルの性格、特徴を職員間で認識できた。今後も入居者様の状態の変化に応じて、個別対応に留意していく。

【環境整備】

居室内の床清掃、コップや歯ブラシ消毒は担当だけでなく職員全体で協力して行い、共用部分は職員が交代で清掃を行うよう役割分担を整備した。また、安全に配慮して備品の配置を変更し、整理整頓を心掛けた。居室等の清掃は一部入居者様にも手伝って頂く事で、役割や愛着を感じて頂けるように努めた。今後は時間の効率的な活用に努め、申し送りを行って時間帯や日を分けて清掃を行うと言った柔軟な対応も取り入れていく。

【その他】

- ・ 2階

ユニット備品点検表を活用し、蛍光灯や空調設備の不具合の報告を行った結果、施設の協力も有り大きな混乱も無く生活して頂けた。車椅子清掃は、担当によって頻度や程度にばらつきが出て負担が偏る事態が生じたが、ユニットリーダーを中心に職員が協力してカバーした。負担の均等化についてはマニュアルを作成し、今後改善を行う。居室内の排泄用具清掃は、時間が比較的固定されており、担当職員が明確な為、滞り無く行う事が出来た。

・ 3 階

年度が代わる頃より体調を崩される入居者様・職員が多数おり、早期の発見・予防・隔離等、感染症対策の知識が活かされたのか大きな感染拡大までは至らなかった。今後も感染症予防に努め、感染拡大してを防げるよう日々の業務の中で注意を払って仕事を行っていく。また、日頃より体調管理にも気を付けて早期発見・早期治療を心掛ける。

・ 4 階

1月、2月に風邪等で体調を崩される入居者様が多数おられ、早期の予防隔離等も含め、職員の対応の遅れから感染拡大へと繋がった。また、2名の職員がインフルエンザに感染した。今後は、早期(11月~5月)より感染予防に努め、発症を未然に防いでいく。また、職員においても手洗いやマスクの着用を徹底し、日頃より体調管理に努めていく。

〔10〕 デイサービス

【安心してご利用いただけるデイサービスの運営】

利用者様、ご家族に信頼されるデイサービス作りを目標とし、職員の質の強化を図り、細かな要望に対応できる質の良いデイサービスを進めた。

【利用内容の明確化】

- ① 新規実調時にサービス利用時の細かな時間及び活動内容の説明。
- ② ケース記録をパソコン及び紙ベースの両方に記載した。

【利用受け入れ態勢の強化】

- ① ご家族、ケアマネジャーのご希望に合った利用曜日を設定し、入浴形態もご本人の意思に沿って実行受け入れを行った。
- ② 新規ご利用前の見学、体験利用を勧め、ご本人とご家族同意の上での契約を行った。

【個別援助の充実】

利用者様の多彩なニーズに応えるべく、現存のアクティビティ（集団援助）及び各種体操（集団的訓練）に加え積極的な声掛けを実施し、ご本人が抱えている問題を汲み取り、担当ケアマネジャーへの報告を行い問題解決への連携を強化。又、看護師の指導の下、個別機能訓練（残存能力の維持・強化）を行い、ケアマネジャー及びご家族へ報告を行い、モニタリングに努めた。

感染予防については、利用者様来所時には「うがい」・「手洗い」をして頂き感染予防に努め、『清潔な空間の提供』との気持ちを持って取り組み、利用者様帰宅後のサニタリー空間のアルコール及び次亜塩素酸消毒を毎日実践し、結果インフルエンザ等の感染者はなかった。今後も引き続き感染予防に取り組む。

【実績報告】

登録者数は多少の前後はあるものの前年度比1月平均利用者数0.5人増、延べ利用者数141人増となり、収入3000千円（3%）増となった。実績者数としては、ショートステイ利用、入院、都合、体調不良等で欠席者あり、実績数としては伸び悩みもあった。

【登録者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27年度	62	61	64	68	67	67	66	65	62	64	61	61
28年度	62	63	64	67	67	66	64	63	65	64	61	58

【営業内容】

定期的な居宅支援事業所への挨拶を行い利用者獲得に努めた。

【一日平均利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	16.6	16.0	18.8	19.3	20.1	20.3	22.5	20.0	21.8	21.5	21.6	21.2	20.0
28年度	21.9	21.9	22.0	20.5	20.5	21.2	20.9	20.3	19.7	18.3	18.5	20.2	20.5

【延べ利用者数】

平成 28 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合計(人)	男	168	172	167	152	158	148	134	128	108	99	104	118	1656
総合計(人)	女	402	397	409	383	398	404	410	401	381	340	339	429	4693
総合計(人)	合計	570	569	576	535	556	552	544	529	489	439	443	547	6349

【平均介護度】

平成 27 年度	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.5	2.5	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5
平成 28 年度	2.6	2.6	2.5	2.5	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.5	2.5	2.5	2.5

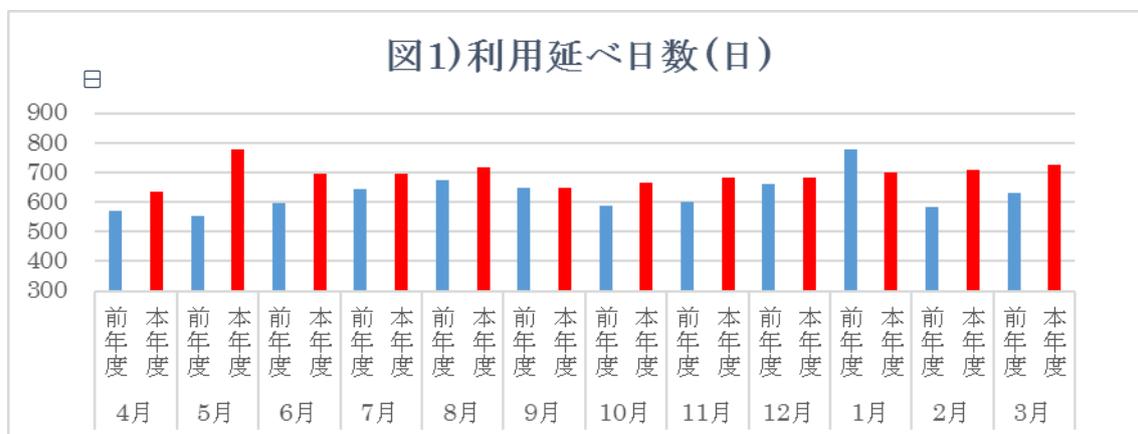
〔11〕ショートステイ

◆ご利用様が安心・安全に過ごせるために…

- (1) ご利用者様・ご家族様のご希望の入退所時間や乗降車時の介助方法などを
受け、適切に安全に送迎業務を行うために車椅子車両を購入した。
- (2) ご利用者様が自らまたはご家族様の意向等から、食事や入浴、居室環境、
外出・レクリエーションなど自己決定(選択)できる機会を多く持ち、多様な
ニーズに即応できた。すなわち、ご利用者様と関わりを多く持ち、これまでより
処遇を改善した。日常業務の内容や時間、方法など見直し効率化を図るため、タ
ブレット端末の実用化に成功した。
- (3) ご利用者様の心身状況などから安全に過ごせる環境を工夫し、職員は美化
活動やKY活動、5Sの徹底を図ると共に、ご利用者様の生活場面で時間や場
所など状況分析を重ね、ご利用者様にとって安心・安全に過ごせ、職員も適
切な介護サービスを提供できた。

上記(1)～(3)の新たな取り組みや業務改善から、①事業稼働の年間目標を1日あたりの利用者数22.8人、利用延べ日数8,325日で利用率126.6%である。②物品等の購入予算額は514千円(▲34千円)、③嗜好飲料107千円(▲17千円)、④介護用品(おむつ類)は210千円(平均17.5千円/月)という結果に繋がった。

【参考】1)利用者延べ人数(日)、2)時間別・場所別事故発生状況



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
前年度	568	555	594	643	674	648	587	602	660	777	585	632	7,525
本年度	633	777	695	695	716	646	664	681	682	701	708	727	8,325

【補足】平均要介護度は3.50/年、平均年齢は84.69歳と例年並みである。

〔12〕居宅介護支援事業所

【継続的な改善への一歩】

平成28年度は「振り返りながら前へ」ということで1年間取り組んできた。ただ単純に前へ進むというだけでなく、進むためには“おこなった”ことについても再度見直しをして修正をしていくという意味であり、これはこれからも継続していくべき行動指針として根付かせたい。

○地域の中へ

地域の中の事業所となるために、月に2回の地域美化活動(ゴミ拾い)を開始した。これは“街(地域)をきれいに”というだけでなく、定期的な活動をすることで地域の方々と顔見知りとなることが一番の目的であった。活動としては定着してきているので、次年度である29年度は新たな活動を試み、より一層地域の中で身近な存在となっていきたい。

○ケアマネカ

退院・緊急依頼等、すぐ動く力や柔軟な対応を求められることが多い1年であった。今までの経験が活かせるかどうかは、これもまたやはり振り返ってきたかどうかのポイントとなっているようにも感じられ、まだまだ振り返ったことを力としていくには弱かったように思う。ケアマネジャー個々の頑張りを大切にしながらも、事業所としての支援の力も伸ばしていきたい。

平成 28 年度 事業報告書

2017 年（平成 28 年）5 月 28 日 発行・印刷

監修・編集 社会福祉法人 芳清会

印刷・製本 社会福祉法人 芳清会

TEL 049-247-7311

FAX 049-247-7312

URL <http://www.houseikai-y.jp/>

E-mail yasenosato@houseikai-y.jp